

※意見交換の内容は要約しています。
（太字は参加者の意見、細字は市長の応答です。）

【意見項目】

- 1 人口減少の対策について
- 2 災害時における小学校の避難所利用について
- 3 有明海沿岸道路の騒音問題について
- 4 サイクルロード沿いのポケットパークにおける遊具について
- 5 水害対策について
- 6 家族で過ごせるテーマパークについて
- 7 民生委員の確保について
- 8 老人クラブ連合会、社協の拠点確保について
- 9 台風の対策について

【意見交換内容】

1 人口減少の対策について

諸富町の人口問題についてです。平成17年の市町村合併当時は約1万2千人でしたが、現在は1万人を割っているような状況です。この間に少子・高齢化も進みました。この地区の小学校の児童は約10年間で約100人減っています。

一方、隣接している校区では生徒数が増加しています。50戸連たん制度で家が増えたからだと思います。諸富町もその制度はあるものの、農振地域の農地があることで、住宅を建てる余地が少ないので、これを見直していただきたいです。50戸連たん制度の恩恵が受けられる、または、都市計画の見直しで住宅を建てられるエリアを広げていただくことが必要だと思っています。もう1点は、私が住んでいる隣保班と隣の隣保班を合わせて21軒ありますが、21軒中4軒が空き家です。空き家対策と合わせて、人が住める、住んでくれるようなまちづくりをぜひお願いしたいです。

（市長）

人口減少問題は大変深刻な課題だと思っています。人口が減少すると言われ始めたのは30年前ぐらいからです。実際、実感としてもどんどん減っていて、深刻さを増してきていると思います。

人口ピラミッドが、元々はきれいな三角形でしたが、釣鐘型のような形になり、今は逆三角形になっています。人口を維持するための水準と言われる出生率は2.08です。人口ピラミッドが釣鐘型や三角形のときであれば、2.08を実現していけば、人口が維持できます。しかし、逆三角形になると、出生率が2.08でも、人口が何十年も減り続けていく。そのような時代を、今、迎えてしまっています。

人口増のためには、自然減を減らしていく、それから社会増で移住者を増やしていく、この2つが必要だと思っています。

佐賀市の場合、社会増は今のところそんなに悪くはないですが、自然減はもう発生してしまっています。これを子育てしやすいまちにしていくことで、改善していきたいと思いますが、人口の構造自体が変わっていますので、2人、3人産んでも、国全体として人口が減る局面を迎えていると思っています。

人が増えるという意味では、50戸連たん制度で、今まで諸富町では28区画ほど分譲されてきましたが、一方で、空き家が増えていることも非常に重要な課題です。佐賀市全体では、空き家が3,000軒もあり、諸富校区でも150軒以上の空き家がありますので、周辺で住宅開発をしても、中心部が空洞化していくということが起きてしまいます。

この空き家を、様々な形で使えるものは使っていきたいということで、今年から、空き家をリフォームする場合の補助事業をスタートしています。

また、専門家に気軽に相談できるような相談体制の支援も行っています。利活用できる空き家もあれば、危険だから除去したほうがいい空き家もあると思います。そういうことを専門家の知見も使い、振り分けて、リフォームして活用できる空き家を使ってもらいたいと考えています。人口減少への対策として、空き家をうまく活用していくことも大事だと思っています。

今年、立地適正化計画を作り、生活に必要な施設を維持、充実させて、暮らしやすい環境づくりを目指しています。諸富町は有明海沿岸道路が延び、今後はさらに交通の利便性が高まると思います。そこで、例えば、南部エリアに産業団地の検討をしたり、そこに新たな拠点ができ人が賑わったりすることも出てくると思います。そうしたことを複合的に取り組みたいと思います。

2 災害時における小学校の避難所利用について

これから台風のシーズンです。大きい台風が来ると、たくさんの方が避難所を利用します。校区によっては、学校が避難所になることもあり、学校と市役所の間で、学校をどのように避難所として使うのかという共通理解がない気がします。避難された方たちが自宅に戻られた後、学校は速やかに教育活動を再開しないとイケません。避難所として使われた場所を復旧する作業がありますので、学校をどう使って、どう復旧するのか、ぜひ佐賀市と教育委員会や、校長会、事務長会、教頭会等と連携をして、早めに共通理解を深めていただきたいです。

(市長)

災害時、避難者の数が多い場合は小学校が2次避難所となるので、市役所と学校との連携を充実させてほしいということですね。災害の規模や、大雨や台風といった種類、公共インフラの毀損状況によって、避難者の数や避難時間、期間も変わってきます。様々な状況をシミュレーションしながら、公民館や学校をどう使用するのか、子どもたちの教育をしっかりとっていくためにも、教育委員会、校長会含めて、しっかり連携していきたいと思っています。

(総務部長)

台風が来ますと、集中して多くの方が避難されますので、受付を簡易にするため、今年からデジタル市民証を活用して、受付をスムーズにする取組をしています。ご意見をいただいた、避難が終わった後の小学校を本来の姿へ復帰することにつきましては、先ほど市長が申しましたように、関係部局の情報を密にして、連携しながら、さらなる取組をやりたいと思います。

3 有明海沿岸道路の騒音問題について

私の地区を有明海沿岸道路が通っていて、近隣の人が騒音や車のヘッドライトで眠れないと言っています。そういう問題があり、3回ほど地元説明会もあったので、そのことを話しましたが、なかなか進展していません。今度、要請書を出すつもりですが、市長からも、国交省にどうか相談をしていただけないでしょうか。

(市長)

有明海沿岸道路は、2022年11月に諸富インターチェンジが開通して便利になりましたけれども、橋のつなぎ目の振動や騒音でお悩みだと思います。その点については、事業をしている国交省の有明海沿岸国道事務所に対応を考えてもらえるように、皆さんの声をしっかり伝えたいと思います。一方で、有明海沿岸道路が伸びてくると、南部地域の可能性が広がっていきますので、国には対策は対策として、しっかり行っていただくとともに、早期に整備を推進していただくことも併せてお願いしたいと思います。

4 サイクルロード沿いのポケットパークにおける遊具について

徐福サイクルロード沿いのポケットパークに遊具がありましたが、地元で意見を聞かずに撤去されて、その後、鉄棒しか作られませんでした。他の遊具をぜひ設置していただきたいと思います。

(市長)

ご意見いただいた遊具の件は老朽化が原因だと思いますので、事実関係を確認したいと思います。

5 水害対策について

農地のほ場整備事業をしてから、諸富町では、水害や冠水がひどくなりました。樋管の操作をしないと冠水します。公共的事業で作られた農地や水路をもう一度、検証していただきたい。諸富町の内水を早く落として、佐賀江川の雨水を新川に早く流すという発想で、諸富町をモデル地区として、ハード面とソフト面の両面を併用してのマニュアルづくりをしてはいかがでしょうか。

(市長)

お話のとおり、ほ場整備などで整備された農業用水路がいろんなところにありますので、流域治水という考えでうまく浸水対策に活用していくことが大事です。また、国や県、それぞれの河川や農業、土地改良の関係者と議論をして、連携していくことが、ますます大事になってきます。

それと同時に、例えば、クリークの農業用水路を事前排水して水位を下げた後、実際には雨があまり降らなかつたら、農業用水が回復せず困りますので、水を迅速に補給できるように国に協力してもらって、流域治水の取組を広げていきたいと思っています。

ご意見いただいた樋管の操作も、地元との連携が大事になりますので、ご意見を参考にしながら、今後につなげていきたいと思っています。

6 家族で過ごせるテーマパークについて

佐賀県全体で考えてほしいと思っていますが、佐賀県には動物園、植物園、水族館、テーマパーク、遊園地のような施設がありません。

このような家族で集まる場所が少ないこともあって、若い世代、家族が定着しないんだと思います。佐賀県の人口を安定させるような憩いの場所が必要だと思いますが、どうお考えでしょうか。

(市長)

佐賀市内には、例えば、大牟田市の動物園のようなテーマパークが無いんじゃないかというご意見ですね。

佐賀は住みやすく、福岡にもすぐに行ける利便性があるので、福岡と同じことをしても、独自の価値を出せないと思っています。佐賀らしさを核に置きながら、人が集まり、お金が使われて、地域が循環するようなことをしていきたいと考えています。

関連して、神野公園が、大正 12 年(1923 年)に、佐賀市に寄贈されて、ちょうど 100 年経ち、手を入れたいと思っています。神野公園内のお茶屋は、鍋島直正公が別邸として使っていた佐賀の歴史上由緒のある場所ですが、それを活用できていないと感じています。そうした歴史的な価値があるものを、佐賀にしかない体験の場所に変えていきたいと思っています。

国スポをきっかけに、何十万人の方が佐賀に来られます。「来られた」で終わりにせず、「宿泊してもらおう」、「飲食してもらおう」など、日常型レジャーも非日常の体験も佐賀でできるようにしていきたいと思っています。

7 民生委員の確保について

先日、佐賀新聞に、国が民生委員確保のために選任要件を緩和する案を出したという記事が出ていました。この要件緩和の案では、通勤で訪れる人や以前住んでいて転出した人にも広げることを考えておられます。そのような方たちが、本当に民生委員の活動ができるのでしょうか。民生委員は、行政と市民のパイプ役です。パイプ役は、情報だけ提供して、あとは知らないということではできないですよ。それに、高齢者のお世話をしたり、パイプ役だけでは済まないこともあります。国の要件緩和を、佐賀市としてどう考えられているのか、お尋ねします。また、民生委員の欠員がゼロになるようお願いしたいと思います。

(市長)

お話のとおり、情報をつなぐだけで地域の困り事に寄り添って対応することができるのかなという懸念はあります。成り手不足の問題、欠員の問題は、非常に大事な課題だと思っています。どういうやり方だと、成り手の手が挙がりやすいのか、民生委員の皆さんや、自治会長さんたちとコミュニケーションを取りながら考えていきたいと思っています。

全国的な要件の緩和というだけで、バラ色の解決につながるわけではないと思いますので、地域の実態を踏まえ、ご意見も参考にしながら、一緒に考えていきたいと思っています。

8 老人クラブ連合会、社協の拠点確保について

老人クラブ連合会、諸富地区社会福祉協議会は、子育て支援、高齢者支援等も含めて、いろいろと活動しておりますが、全てボランティアの活動です。様々な経費がかかり、佐賀市からは支援をいただいておりますが、今後なお一層、ご支援をいただければありがたいなと思っています。

また、老人会、社会福祉協議会の拠点がありません。現在、公民館の一室で活動していますが、諸富公民館の改築等で、活動場所がどうなるか心配しています。今後の活動拠点について、ご配

慮いただきたいと思っています。

(市長)

今、現公民館の一室を活用されているということですね。新公民館が2025年9月落成予定なので、その後、現公民館は、講堂部分を改修して引き続き活用していくことになります。皆さんのお話を聞きながら、考えていきたいと思います。

9 台風の対策について

これから台風のシーズンになります。台風シーズンの対策は取れていますか。

(市長)

今年も、急に大雨が降るといった不安定な気候が続いていますし、台風についても、しっかりと対応していきたいと思います。各地域で消防団の皆さんも夏季訓練など行っており、そうした皆さんと連携しながら、これまでの災害の経験を活かしながらしっかりと備えていきます。